いわむろ
発行所 岩室村役場
印刷所 巻・北洋印刷K・K
No.81

岩室村の昭和44年の目標

時間を守ろう

年頭にあたり

村長　横山喜八郎

昭和四十四年の新春を迎え村民の皆さんに深く御慶び申上げ何時も変らざる御協力を心から厚く御礼申上げます。

さて、一九六九年更に激動しようとする幕が切って落されました。廿一世紀へと歩を進めつつある年頭に皆さんと共に岩室村の過程を省み将来への新たなる飛躍を探究する時誠に感慨深いものがあります。

昭和三十五年新生岩室村の誕生を見てより将に十年目を迎えましたが、我々は常に新生岩室村の発展を祈念して最善の努力を傾注して参りました。

幾多先輩各位の御努力に依り水道事業、中学校の統合建設、道路の改良及び舗装、近代化的農業の育成、間瀬漁港の整備、広域行政関連事業、商工対策又は住民福祉の向上にまつわる万般の各事業の推進等、これ等は常に村政発展のために大きな素因を為して来たものであります。このような我々の村史は、もとより住民各位の大きな犠牲と協力及び国県当局の御理解に依るものでありますが、これらを基にして、現在将に始動しつつある弥彦山「有料道路事業」旧間瀬中学校の「海の家」旧岩室西小学校の医療センター等、佐渡弥彦国定観光地帯に君臨する岩室観光前進のプランは余りにも目を見張るものがあるといい得るのであります。

村といたしまして、これらに合わせた今後の総合開発計画が望まれる転機に到来したものでありますが、多難で然も夢と希望を裏付けされた今後の岩室行政は必らずや賢明なる村民各位の英智を結集してこそ前途が拓けるものと信じます。

従いまして、私も昨春各位の絶大なる御支持のもとに岩室首長の座に就任してより爾来十一ヵ月、私の公約してまいりました「対話」の村政実現に努力して参りました。

まず第一に青年団主催による公聴会、村政懇談会(移動役場)を開催し、くまなく各部落の皆さんと直接膝をくづして御意見、御要望をうけたまわり住民のなまの声を聴取いたしました。

また、岩室村総合開発審議会を設定し、在野の純潔たる青年の士を自由な立場に近代的可能性のある政策具申及び将来のビジョンの策定及び「なまの声」の集約的の場として御協力を願って参りましたが、村としては議決機関としての岩室議会、農業委員会を始め、其の他幾多の公私的機関がありますけれども、これらの機関はそれなりの重大使命と制約のもとに運営されて居るものでありますが、岩室村総合開発審議会が何物にも制約されず、「近い将来を現実の基盤に立って展望する事こそが、岩室村の発展につながる大きな意義を含めて居るものといえます。

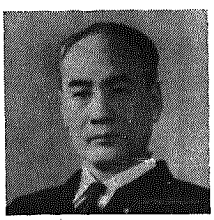
そして常に村の未来を努力して創造し、これに挑戦しなければならないわば未来を実現するのは私たち自身であり、現実へのきびしい認識の上に立って、これを改善しようとする積極的な革新への意欲がなければなりません。そこには「融和」と「前進」のもとに村民各位の岩室村飛躍への御理解と御協力を切望する次第であります。

愈々厳寒の時候でございますが、村民各位併せて故里を離れ遠く働いて居られる皆様方の御健勝を祈念し年頭の御挨拶といたします。

しじみとり

東京の兄さんが言ってきた。田舎の味噌漬・寒ブナ・しじみが食べたい……。これからの寒さに向ってのしじみの味はおいしさを増す。身をキルような水の中に田舎の味をさがす。

議会議長

本間十郎

明けましておめでとうございます。年頭にあたり、私達議会議員として、何よりの願いは、どうしたら、私達の村が住みよい、日のあたらないところのない、明るい村に成長するかということです。全村民の皆様方から建設的と思うことは遠慮なく助言をいただき、村は財政の許す限り、これを立案し、議会は、公平無私、慎重に審議し、もって一日も早く希望と生命にあふれる村にするよう努力することこそ、私達議員の責任と、痛感する次第であります。皆様の御健康と、御多幸を祈り、年頭のあいさつといたします。